

平成26年度 学校評価結果報告書

小松市立中海小学校

	自 己 評 価				学校関係者評価		
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	(学校運営)	【満足度指標】	分掌における取組が十分整理されており、共通理解のもと事業が進められていると感じている職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・委員会で先に審議する流れは、確立できた。 ・委員会においては、概ね活発な議論が行われている。 ・委員会の時間確保が難しい。 ・それぞれの取組に対する共通理解は図られている。	B	・主要な事業については、計画・実行・検証・提言の流れが確立されている。 ・委員会の時間確保に関しては対策が必要。	・今年度組織の改編を行ったところであり、来年度も今年度の体制を継続する。 ・各主任には見通しをもって委員会を開催してもらう。
	(危機管理)	【満足度指標】	各種危機に対する研修や訓練が適切に行われたと考えている職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・避難訓練、交通安全教室、防犯訓練等を年度当初の計画に基づき実施できた。 ・屋内消火栓を使用した訓練を行った。 ・不審者対応の訓練では、小松警察署の職員を講師として招いた。	A	・建物の建材等も変わってきている。火災対応の避難訓練では煙に対する配慮を重視しなければならない。 ・それぞれの教室などに避難ルートが明示されている。当然ではあるが大切なことである。 ・台風などの非常時の対応の判断、連絡体制等を常に確認しておくことが必要。	・今後も計画的に各種の危機に対する訓練や研修を実施していく。 ・消防署や警察署に講師を依頼し、より専門的な見地から指導を受ける。 ・情報収集を行い、不足していることはないか常に検証していく。
	(いじめ・不登校対応)	【満足度指標】	問題の未然防止・早期解決が図れたと考えている職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・アンケート等により、いじめの早期発見に努めた。 ・定期的に児童理解の会を開催した。(心の相談員を交えて行うこともできた。) ・児童会においても「いじめ防止スローガン」の決定、スマイル集会の実施などの取組が行われた。	B	・ちょっとした仲間はずれのようなことがいじめにつながっていく。本格的ないじめになる前に止めることが大切。 ・男子教諭が気付くことと女性教諭が気付くことは違う場合がある。情報の共有が大切。児童理解の会において全員で情報交換をしていることを継続していく。 ・中学校との連携も必要。 ・気になることは多々あるだろうが、児童の良い面も見ていけるとよい。	・気を緩めることなく、現在の指導体制を維持していく。 ・正式なルートに基づく報告の他に、児童の小さな変化について、適宜職員室において情報交換を密にしていく。 ・遊びの中にあるいじめに発展しそうな事案についても対応に共通理解を図る。

② 確かな学力の育成	<p>〈基礎・基本の学力の定着〉</p> <p>わかる授業の実践、学習タイムの有効活用などにより、読み・書き・計算の基本をしっかりと定着させる。 【学びの指針4条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>国語科・算数科の基礎・基本が8割以上できる子が80%を越えるようにする。</p>	<p>基礎・基本の定着度が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・朝と昼に学習タイムを設定している。 （朝は、基礎・基本の確認を中心とし、昼は活用力をつける課題も行っている。） ・長期休業中に個別の対応を行っている。 ・6月・10月・2月にロングチャレンジタイムを設定して、全校で「書くこと」に取り組んだ。</p>	<p>B</p>	<p>・基礎となる漢字や計算についてはすべての児童に定着することが望ましい。やはり、個別の対応が必要となる。</p> <p>・テストやプリント学習の結果に基づき個別の指導を継続する。 ・自学ノート指導など家庭学習に対する個別アドバイスを行う。 ・ロングチャレンジタイム等の時間の設定、学習内容について検討する。</p>
	<p>〈授業力向上〉</p> <p>「学び合う子」の育成をめざして授業力の向上に努める。 【学びの指針1, 2, 3, 5, 6, 11条】</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>課題に対する考えを、持つ・伝える・比べる・関係づける・振り返ることを意識した授業を行う。</p>	<p>単元に応じた学び合いができていて考えている教師が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・学び合いを意識した研究授業を行っている。 ・学び合いを取り入れることを目的に自己点検表を作成し、月ごとに取組状況の振り返りを行っている。 ・見てもらうポイントを絞ったミニ公開授業を行った。</p>	<p>B</p>	<p>・今求められている学力を意識した授業が行われている。 ・時代は変わっていくのでそれに対応していくことが大切。</p> <p>・学び合いは本校児童に欠けている力(自由な発想力・表現力等)をつけるための手段であることをしっかりと認識して今後も取り組んでいく。 ・学び合いの定義を明確にして、児童と共有する手立てを講じる。 ・ミニ公開授業を増やしていく。教師の立ち位置、発問の仕方、児童への声かけ等も学ぶ機会としていく。 ・評価指標について学校研究と関連させ検討する。</p>
		<p>【成果指標】</p> <p>児童が自分の考えを伝え合う活動を大切に考えて、ペアやグループなどにおける学習に取り組んでいる。</p>	<p>学び合う活動に達成感を感じている児童が</p> <p>A: 80%以上</p> <p>B: 70%以上</p> <p>C: 60%以上</p> <p>D: 60%未満</p>	<p>・全校集会で6年生が学び合う学習の提案を行った。他の学年は、その姿を目標に取り組むことができた。 ・授業の終末に振り返りの時間を設けることができるように努めた。</p>	<p>A</p>	<p>・「おおかわの会」の協力で6年生がサケの飼育をしている。実物を見るのは大変良い学習になる。 ・アンケートでは多くの児童が学び合う学習に達成感をもっている。</p> <p>・学び合いの姿を児童と共有できるように努める。 ・他学年の授業を児童が見る機会をつくる。 ・より充実した「学び合い」を目指し、評価指標の見直しあるいは達成度判断基準の引き上げを検討する。</p>
	<p>〈家庭学習の習慣化〉</p> <p>学年にふさわしい内容・時間を伴う家庭学習の習慣化を図る。 【学びの指針7条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>児童がやる気と向上心をもって、家庭学習に取り組んでいる。</p>	<p>家庭において、十分な学習が定着している児童が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・日常的な学習指導に加え昨年同様に「しゅ(宿題)・れん(連絡帳)・じ(自学・時間)」週間を設定し、家庭学習を充実させる取組を行った。</p>	<p>B</p>	<p>・学校が「ノーメディアデー」を設定しているが、こういった働きかけが大切。家庭でも注意をしていると思うが、学校の先生から言われると子どもの受け止め方が違う。 ・「しゅれんじカード」の利用は、家庭における親子のコミュニケーションにも役立っている。</p> <p>・「しゅ・れん・じ」週間は、保護者と連携した取組であり、今後も現在の方法を継続していく。 ・学年にふさわしい時間、内容について見直しを進める。 ・どのような宿題を出すか学級担任任せにせず、学習指導委員会でも検討していく。</p>

③豊かな心の育成

<p>(積極的な生徒指導)</p> <p>自他ともに認め合い、学校に来ることが楽しいと感じる子どもを育てる。</p>	<p>【努力指標】</p> <p>生徒指導の3機能(自己決定・自己有用感・共感的人間関係)を意識した授業を心がける。</p>	<p>授業において3機能を意識している教員が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・学校研究とタイアップして、自分の考えを持つこと(自己決定)、それを伝えること(自己存在感)、伝えられたことを受けとめること(共感的な人間関係)を意識して授業に取り組んだ。</p> <p>・児童が自身の成長や課題に気づくことができるように、授業時間のマイナス5分を意識し振り返りの時間を持つことに取り組んだ。</p>	<p>A</p>	<p>・生徒指導の3機能はよく意識されている。</p> <p>・生徒指導の3機能はいずれも大切なこと。指導をより有効なものにしていくために、家庭との連携も必要。学校で大切にしていることは、家庭でも大切にしていけるとよい。</p>	<p>・今後も学校研究委員会と連携して、生徒指導の3機能を意識した学級経営・授業づくりに取り組んでいく。</p> <p>・授業の3か条については、繰り返し意識化を図る取組が必要。状況に応じ、学校全体で強化期間を設ける等の取組を検討していく。また、児童の状況を踏まえて、3か条の内容についても検討する。</p> <p>・生徒指導の3機能について教師はよく意識しているため、その成果が児童の姿となって現れているか、検証していく。</p>
	<p>【成果指標】</p> <p>学校へ来ることが楽しいと感じる子が8割以上になるように努める。</p>	<p>楽しいと感じている児童が</p> <p>A: 100%</p> <p>B: 90%以上</p> <p>C: 80%以上</p> <p>D: 80%未満</p>	<p>・町別の子どもの数に大きな差があること、1学年1学級であることを考慮し、縦割りでの活動を重視して取り組むことができた。遠足、給食、ゲーム等を縦割りで行った。</p> <p>・学習以外のことで個別に児童の話を聞く機会は、十分とはいえない。</p>		<p>・児童全員が学校が楽しいと思えるようにすることは重要なことである。</p> <p>・アンケートで学校が楽しくないと答えている児童と勉強がわからないと答えている児童は一致するのではないかとと思われる。</p>	<p>C</p>
<p>(キャリア教育の推進)</p> <p>将来なりたい自分の姿を思い描き、目標をもって学校生活をおくることができる子どもを育てる。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>自分の将来に夢や希望をもっている子が8割以上になるように努める。</p>	<p>夢や希望をもっている児童が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・いろいろな機会をとらえ、夢を持ち、その実現に向けて努力していくことの大切さを訴えている。</p> <p>・卒業生を招いて、「ようこそ先輩 夢・未来講演会」を行った。</p>	<p>B</p>	<p>・将来に夢や希望をもっている児童が多いことはよいことである。</p> <p>・一人でも多くの児童が夢をもてる教育を大切にしていきたい。</p> <p>・一番身近にいる大人は親であり、家庭における親子の触れ合いも大切。</p>	
<p>(読書活動の充実)</p> <p>幅広いジャンルの本に出会う様々な機会を設け、読書が好きな子どもを育てる。</p> <p>【学びの指針8条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>本をよく読み、読書が好きな子が8割以上になるように努める。</p>	<p>読書が好きな児童が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>・3か所ある図書の展示コーナーの展示テーマを2週間程度で変更し、幅広いジャンルの本に出合える機会とした。</p> <p>・教師や児童が行う読み聞かせや、家族読書などに取り組んだ。</p>		<p>B</p>	<p>・「おすすめ10冊」はよい取組であるが、児童によっては10冊を達成するために、じっくり読まないこともあると思われる。その対策も必要。</p> <p>・いろいろな本に出合う機会が設けられている。</p> <p>・図書館の本も学校規模に比べて充実している。今後は、それぞれの学年にふさわしい本の充実を期待したい。</p>

③ 豊かな心の育成	(道徳教育の充実)	【努力指標】	内容を工夫した授業を学期に	・「わたしたちの道徳」を年間指導計画に位置づけた。 ・「わたしたちの道徳」の保護者記入欄を積極的に活用した。 ・授業のどの時間帯でどんな資料を提示するか検討を重ねた。 ・指導内容の工夫について共通理解を図ったが、十分とはいえない状況。	B	・教えて身につくものもあるが、自然と身につくものが大切。その意味では、道徳はまず家庭から考える。生まれた時から家庭教育は始まるのであり、家庭との連携も大切。 ・教えるというより、生き方を学ぶ場であってほしい。先生も一緒に考え、学ぶ場であるといふ。	・学級だより等において道徳の授業に関する話題を掲載し、親子で考えてもらうなど家庭との連携を推進する。 ・教科の授業においては積極的に地域の方に入ってもらっており、道徳の授業においてもゲストティーチャーの招聘を検討する。 ・努力指標の内容をより具体化する。
	児童の実態に即して、いしかわ版道徳教材の活用やゲストティーチャーの招聘等指導方法を工夫する。	指導の内容を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。	A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった				
④ 健やかな身体の育成	(たくましい体の育成)	【満足度指標】	体育カードの活用や校内各種大会に	・鉄棒カードや縄跳びカードを利用した取組を行った。 ・体育委員会主催の縦割りドッジボール大会やしっぽ取り大会を行った。 ・スポチャレいしかわに積極的に取り組んだ。	A	・カードは児童の意欲を高めるのによい。 ・子ども数が少ない町もあり、家に帰るとほとんど遊ぶことができない児童もいる。学校で友達とたくさん遊んで、体を動かしてほしい。	・来年度は新たに水泳カードを作成する。 ・縦割りで行う大会を今後も行う。種目等において児童のアイデアも生かしていく。 ・ニュースポーツの用具などを増やし、児童が自発的に運動に取り組むようにしていく。 ・スポチャレの取組について、休み時間も練習できるように体育館の使用割を工夫していく。
	体育科や特別活動での体育的活動を通して、スポーツや体を動かすことの楽しさを知る。	各体育カードを活用したり校内各種大会に取り組む。	A: 十分に取組んでいる B: 取り組んでいる C: 取り組んでいない D: 取り組んでいない				
	(健康教育)	【成果指標】	早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が	・主に保健だよりにおいて、朝ごはんや規則正しい生活の大切さについて呼び掛けた。 ・学校保健委員会を開き、歯と食べ物との関係について学習した。 ・「しゅれんじ」の取組において、メディアの時間を意識させた。	B	・児童のアンケートと保護者のアンケートが一致している。早寝早起き朝ごはんができていないことは、親もわかっており、親にも責任があると考えられる。	・テレビやゲームに関して、1日の視聴時間を減少あるいは制限する取組を実施する。 ・アンケート結果をもとに保護者に対する啓発を行う。
	健康の増進、危険の回避、望ましい食生活等について、教科・特別活動等と関連させ、系統的な指導を行う。 【学びの指針7条】	健康の保持・増進に関心をもち、望ましい生活を送っている子を8割以上にする。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
⑤ 家庭・地域との連携	(あいさつができる子の育成)	【成果指標】	進んであいさつができたと感じている児童が	・児童会（明るくスタートあいさつ週間、町別あいさつりレー）や育友会であいさつ運動に取り組んだ。	B	・「おはよう」と声をかけても始めのうちはなかなか返事が返ってこないが、やがて、自分の方から言えるようになる。継続して声をかけていくことが大切。 ・挨拶はまず家庭からだ。	・あいさつ運動の実施、道徳等において挨拶の必要性を考えるなどの取組を継続する。 ・時と場に応じた自然なあいさつができるようになるまで地道な取組を続ける。
	地域と一体となって社会性を身につけた児童を育成するために、時と場に応じたあいさつができる子を育てる。 【学びの指針7, 9条】	児童が身近な人に進んであいさつができたと感じている。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
	(ふるさとに愛着をもつ子の育成)	【努力指標】	ふるさとから学ぶ体験活動を	・地域の方のご協力により、竹の子掘りと調理、田植え等の活動を行った。また、町探検、工場・駐在所の見学、福祉施設での体験活動等を行った。	B	・自然に恵まれた中海の環境を生かすことが大切。 ・6年生が保育所に来てくれた。始めは何をしたらよいかわからない様子であったが、回数を重ねると自分たちで計画して行動できるようになった。学校では学べない力がついていると思う。保育所の子ども達も楽しみにしていて、とてもよいつながりができた。	・竹の子掘り等年間の取組の1つとして定着しているものもあり、今後も継続していく。 ・6年間を見通した計画を立てる。
	総合的な学習、体験学習をとおしてふるさととの自然・文化・人々に学び、ふるさとに愛着を持つ子を育てる。	ふるさとや地域の素材を学習材にした体験活動をどの学年も2回以上行う。	A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった				